

《小学生の部》

佳作（警察庁交通局長賞）

香川県観音寺市立観音寺小学校

5年 亀井 涼市

ぼくならだいじょうぶ

ぼくは、小学三年生のころ、お兄ちゃんとボール遊びをしていた時、ぼくがボールをキャッチできずに道路のほうへ行ってしまった。その時、ぼくは左右確にんせずにボールを取りに行こうとした。すると、「一たん止まれ。左右しっかり確にんしろ。」とお兄ちゃんがぼくに言ってくれた。そして、ぼくは左右を確にんしようとして右を見たら、自転車がものすごいスピードでぼくの目の前を通りすぎて行った。その時ぼくはこう考えた。もしお兄ちゃんがぼくに左右確にんしろと言ってくれなければ、自転車とぶつかって大けがしていたかも知れない。さらに自転車に乗っていた人にもけがをさせていたかも知れないと思うと、せすじがぞくつとした。道路に飛び出してはいけない。これは幼稚園の交通安全教室で教わったルールだ。車や自転車はすぐには止まれない。だから、道路に出る前に歩行者は止まって周りに危険がないか確にんしなくてはいけない。それまで「そんなこと分かっているよ。道路に飛び出すわけじゃないじゃん。」と思っていた。だけど、ぼくはお兄ちゃんと遊んでいる時にボールに夢中でこんなかん単なルールを守ることができなかった。そして、もう少しで事故にあうところだった。ぼくはこのけい験で、当たり前だと思っていた交通ルールにもきちんと意味があり、そのルールを守らないと大きな事故になりかねないということ、だれだって事故にあう可能性があるということを学んだ。

小学四年生から自転車に乗ることが多くなってきた。ぼくが自転車に乗る時に気をつけていることは、歩行者がいつ飛び出してきてもすぐに止まれるスピードで走ること。理由は、歩行者はこないだろうと思って、速いスピードで走っていたら歩行者が出てきたときに事故になってしまうから。ぼくは、歩行者になることも自転車に乗って行動することもある。どっちの時も決められた交通ルールを守ること。それは絶対守ると心に決めている。自分の命を大切にすることが他人の命も大切にすることにつながると思っているから。何をするにも「だろう」とは考えずにもしかしたらという意味も込めて「かも」と予想できないことが起きることも考えるようにしている。でも、無意識に何かに集中していたりすると冷静に考えて行動できないことがあるかもしれない。今回経験したようにボールに夢中で道路に左右確にんせず飛びだそうとしたりしてしまうかも知れない。

これからは遊ぶ場所を考えたり、自分はだいじょうぶだと過信したりしないようにする

こと。だから、ルールはきちんと守らないといけない。ぼくはそんな気持ちで気を引きしめていこうと思う。そのため約束の時間にはよゆうを持って早めの行動ができるように心がけたい。